

緊急時対応研修を終えて

大庄中 養護教諭 庄司

2023/8/25



暑が続く中、多数傷病者発生時の対応について職員研修を実施しました。今までの訓練とは違う動きが必要となりましたが、先生方の熱心な取り組みで、多くの課題や気づきを見つけることができました♡その課題や気づきを、救急対応や組織体制の見直しにつなげ、危機管理体制の強化をしていきたいです。消防局の方々や西内先生にご協力いただきましたこと、深く感謝いたします。

～事案の状況～

気温30度。体育館で体育教師1人、16人の生徒が体育の授業を行っていた。軽いランニング中に、生徒1名が倒れ(意識、反応なしの重症)その後、4名も体調不良を訴え次々倒れる。そのうち2人は意識あるが朦朧として歩行困難。他2人は軽傷で歩行可能なため別教室へ移動。

保健室前の教室(クーラー使用)で軽症生徒を待機させていたが、うち5名が更に体調不良を訴えだした…。

◆管理職2人+体育教師役1人+先生役10人(養教不在設定)が対応しました◆



体育教師N先生は倒れた生徒への声かけ、観察の後、重症度を判断。元気な生徒へ教師を呼ぶよう指示。重篤な生徒1名を確認したためAEDを依頼し、すぐに胸骨圧迫を開始したが、手で払いのけられる動作あり。その後も応援教師が来るまでの間、5人の生徒全員の観察と声かけを冷静に行っていました。かけつけた先生方もすぐにそれぞれの生徒へ対応していました。

軽症者を保健室前のクーラーの効いた部屋に集め、M先生が素早く黒板に情報を集約していました。そのうち、体調不良を訴える生徒が出てきたため、体育館にいる救急隊員に指示を仰ぎながらH&I先生が対応していました。



N先生に加え、かけつけた先生方。ペットボトル氷やうちわやバスタオルを使って体の冷却をし、OSIで水分補給の対応。M先生はスポットクーラーも使用しました。傷病者は回復体位(横向きに寝る)をとらせ、呼吸しやすくしていました。



傷病者生徒の保健調査票を確認する
I&M先生



U先生が保護者連絡を。
かけつけた保護者役のT先生。



情報の伝達や物品をもって走る～T&N先生

救急隊員は現場にかけつけると、傷病者の観察とトリアージ。トリアージとは大規模な事故や災害等での多数傷病者の救命の優先順位をつけるもの。「Mさん赤！、KさんとYさん黄！」と声をあげながら、トリアージ・タグを手首に。体育館に重傷者がいるので、指揮隊本部が体育館前に設置され、更に情報収集をされていました。救急車の進入は北の正門ですが、消防車は南門からになっていたようで初めて知りました。



<課題、感想、対応策など>

- ◎体育館(重症生徒)と保健室前教室(軽症生徒)の2カ所に生徒を分けたため、消防側は情報収集しにくく、教師も動きが複雑になり、無駄な動きが増えた。⇒できるだけ1カ所(もしくは近い場所)に集めるほうがよい。
- ◎職員室が空になっていたが、本来なら電話対応、保護者対応等もあるため、待機する教師が必要。また管理職への報告ができておらず、職員室のホワイトボードに情報を集約するなどの対応も必要だった。
- ◎暑い体育館に、重症者を動かさずにいたが、熱中症疑いなら、涼しい部屋に移動させるべきだったのか。ただ、意識のない重篤な傷病者(心停止やアナフィラキシー、頭部外傷等は移動×)は移動させてはいけないので、今回の判断になった。意識のあった2人の移動は可能であったと思われるが、傷病者の移動判断の難しさを感じた。
- ◎保護者連絡について、来校してもらうか病院か…伝え方に迷った。また、多数の保護者が来校した場合は、校内の混乱もまねく。待機場所も必要となってくる。

<消防より>

- ◎大規模災害の基準として、傷病者は5人以上。その際、車両は10台出動(救急車3台、消防車数台)場合によっては、ヘリコプターや警察、マスコミ等が多数来る。
- ◎傷病者の重症度の振り分けは救急隊で行うので、場所を明確にし、できるだけ傷病者を1カ所にまとめてほしい。点在すると、情報収集に時間がかかる。点在させる場合は、指揮本部に連絡を入れる。
- ◎保護者連絡は正確な情報だけを伝える。搬送先が決まったら連絡し、病院に来てもらう方法もある。
- ◎最近では SNS での拡散が早く、過去の事例から SNS で気づいた保護者が連絡を入れてくる場合もある。
- ◎保護者を呼ぶ場合の導線の確認を。「何分で学校に来られるか」尋ねてみる。マンパワーをいかに増やすか。
- ◎重症度が高い場合は教員が同乗。学校全体の授業継続の判断や生徒全体の動き等、大規模災害時は、校長からの指示が全体を動かすことになる。リーダーシップが問われる。
- ◎熱中症が疑われる場合、傷病者をまずは涼しい場所へ。熱中症は炎天下で汗をかく以外、くもりでも起こる。暑くなり始めたころ起こりやすい。涼しいところへ移動させ、身体を冷やす。水分補給の基本を忘れずに。

<尼崎総合医療センター西内先生より>

- ◎安全確保をしっかりする。多数の傷病者が出た場合、特に大切。 ◎職員室と現場の情報共有がとても大切。
 - ◎多数傷病者発生の場合は、人数の把握と、重症度がどうなのかが大切。 ◎マスコミへの対策を考える
 - ◎情報共有手段の確保を。伊丹市の学校では、トランシーバーを使って情報共有している。
 - ◎保護者連絡の仕方について。過去の事例から、非日常の事例が起こったら早めに第1報として保護者に知らせ、2報、3報で詳細に伝えるのが現実的。
 - ◎情報発信の方法。多数傷病者発生の場合、学校の対応を情報発信する方法として、場合によってはミマモルメ等を使用する方法もある。
 - ◎記録はとても大切。書く以外にも、スマホやスマートウォッチ等を利用して録音する方法も有効。
- ★なすべきことをしたのか！が大切。役割のチェックリストの活用を。119番遅れずに！**